

子どもの安全対策委員会 現地審査

平成27年10月2日（金）10:00～11:40

場所：吉田南幼稚園

■シェーンボリ先生

ご報告ありがとうございました。

子ども達の活動や園の環境を見せていただき、ありがとうございました。

全体的に非常に素晴らしいお取組みをされてきたと思う。

特に、社会全体として子どものケアをされているということがよくわかった。

園長先生がおっしゃられていた、「社会が変わっていくことにより、子どもに大きな影響与える」ということ、それに対して社会がどういう風にできるか、という側面でアプローチされているところが非常に大切なポイントだと思う。

データを集めることに労を費やされ、さらに細かいデータまで集められるようになり、それを基に分析されて、それから何が求められているのか、何が必要なのかということを確認・把握され、それに対して対策を講じられているということは、非常によくわかり、素晴らしいポイントだと思う。

そして分析されて分かったこととして、特に、児童虐待では、虐待者の多くが実のお母さんであることを把握され、それに対してどのようにしたらよいかという取組みを進められたというご報告でした。

実際、虐待する側として一番多いのが、実のお母さんだということが見えてきた時点で、いかに親であることが難しいか、大変であるかということが見えてきたと思う。そこをしっかりと把握されて、「お母さんダメだよ」という姿勢ではなく、お母さんを支援していこうという方策を取られていることは非常に大切なポイントだと思う。

私が評価しているのは、お母さんであることの大変さを分かってあげる、寄り添ってあげるということに焦点をあててらっしゃるところは非常に大切だと思う。

今日特に、お母さんであるということは大変な世の中になってきている。

その中で、少しでもお母さんであることの大変さが軽減されるようにという視点での取組みが続けられることを期待している。

そして、もう一つの取組みとして危険箇所マップを紹介していただき、非常に関心深かった。

実際に子どもがどのようにけがをしているかということをもとに作られているということで、使えるものになっており、保育所・幼稚園で使うとともに、より多くの家庭に届くようにされている点も素晴らしい。

保育所・幼稚園において子どもの安全に、保護者がどれだけ関わっているかお聞きしたい。

□橋口委員（幼稚園協会）

広報紙関係で、家庭に対する事故の啓発を行っているほか、火災訓練等には、保護者の参加も促している。

また、アンケートを定期的に取りらせていただいて、家庭内の危険箇所を把握し、今回作成した危険箇所マップも配付して保護者に啓発しているところである。

■シェーンボリ先生

無理やりにでも親には、保育所の安全向上にも関わっていただくことにより、一つの安全に対する関心を高めていただき自宅に持ち帰っていただくことも、今までの経験から大切だと思い質問させていただいた。

今後の方向性や課題を見せていただくと、データを基にサイクルを回していく、データが細かく見えることにより、新しい課題が見えてきたとおっしゃられました。将来につなげていく、継続性というものを考慮してらっしゃるところは非常に大切ポイントだと思う。

それに合わせて、DV や学校との協働も今後視野に入れるということですので、非常に大切であるので期待している。

昨日交通安全の報告を受けたが、鹿児島市の交通環境は必ずしも安全でないところもある。

子どもや高齢者に優しい道路かと考えたら、少し危ないと感じたところもあったので、交通安全にもアプローチしていただいて、子どもに優しい道路になっていただければと思う。

全体的にみると非常に、いいモデルになると思う。

専門家の方が集まっており、子ども、親にアプローチされ、他の対策委員会とも一緒になって取組むというのは非常に素晴らしいモデルだと思う。

セーフコミュニティは、自分達だけで解決するのではなく、他の自治体のモデルにもなっていたきたいと考えているので、これから皆様方の取組みをどう発信していくかという視点も検討していただきたい。

■パイ・ル先生

ご報告ありがとうございました。

皆様方の取組の経過、活動について見せていただいて、私にとっても勉強になった。

この取組みは、試行的な事例として他のところに広げていくということで理解しているが、この取組みは、参考にしてみらう事例として、十分であるので、他のところにも広げていっていただきたい。

園内を見せていただいた時に、園長先生から、かつてはたくさん園庭にあった物を、今回を機に随分減らしたという説明があったが、これは安全面からも非常に大切なポイントである。

子ども達にあれもこれも与えたいと思うが、安全の視点から見ると必ずしも安全ではない。

子ども達は思い切り走り回りたい、体を動かしたいと思うので、ある程度のスペースがあった方が、ぶつかったりもせず、安全に体を動かせるので、そのポイントから見ても、物を減らすという判断をされたこと、その方向性に向かっておられることは大切である。

体力向上プログラムについてコメントさせていただきたい。

非常にうまくデザインされた活動だと思う。

身体自身の発達ももちろんであるが、それとともに、安全に行動するスキルもこれによって向上するのではないかと思う。

例えば、アーチについて、前向きに登り、後ろ向きで降りる、安全に行動するためのノウハウ。自然に遊びの中で、行動がとれるようになるものであり、非常に大切なポイントである。

それでは、活動報告について触れさせていただきたい。

非常に興味深く、素晴らしいなと感じたことは、上手くデータを活用されている点である。データを使い、親に安全な状況ではないということを知らせたということは大切である。

そして次に、児童虐待の方に移らせていただきたいが、私がいいアイデアだと思ったことは、お母さま方が集まっている、子育てサロンや母親クラブにアプローチされたところである。そこで悩みの共有をするということに着目されたことは良い点だと思う。

私の関心で質問をさせていただきたい。

日本では、専業主婦は園児の中でどの程度いらっしゃるか。

どれくらいで子どもの面倒をみる方を雇っていらっしゃるか。

(ベビーシッターではなく、24時間)

□橋口委員（幼稚園協会）

本園では、約50%が専業主婦である。

□平嶋委員長

最初の質問にも関係すると思うが、幼稚園というのは、日中家庭で親が子育てをしているところのお子さんが、4～6時間就学前教育を受けるというシステムで、保育所は、日中全く両親が子育てができない家庭のお子さんが利用するものである。

従来は、専業主婦の子育てがよいとされていた。

また、以前は祖父母が子育てに関わっていたが、核家族化や都市化により、ここ2・30年親が孤立という変化が進んでいて、子育て不安が高くなっている。

就労を希望する母親も増えていることから、今回の制度改正にもつながっている。

以前は、保育所・幼稚園を分けて考えていたのが、一体化する方向である。

中国文化圏では、祖母などが2～3年預かって、小学校以降になると親が引き取るようなこともあるようであるが、日本ではない。また、家庭外の人を、ずっと家庭に入れるようなことは庶民家庭ではない状況。

□田中委員（保育課長）

鹿児島市の本年4月の0～5歳児の児童数は、約34,000人である。

うち、幼稚園：約10,000人、保育所：約12,000人、

認可外保育施設：約1,500人、それ以外が、約10,000人である。

■パイ・ル先生

感想であるが、ひとり親が世界的にも増えているが、お父さんとお子さんというケースも今後多くなってくると思われるので、母親クラブから、ひとり親クラブも必要にもなっていくのかなとも思った。

子どもが登園する際、スクールバスが多いか。

□橋口委員（幼稚園協会）

約2割がスクールバスを利用している。

日本の子どもの制度は、本年4月に大きく変わった。

幼稚園、保育所が一体化したところである。その変化した最初の年であることから、この園だけが、今の保育施設を象徴するような構成比にはなっていない。

100年以上の保育施設の形態が初めて歴史上変わろうとしている時期に今年があることから、いろんな変革が起こっているのが現状である。

保育所は、保護者の送迎で通園、幼稚園はスクールバスを利用していた現状があった。

かつては、園児が歩いてきていた時代もあったが環境も激変してなかなかそれが可能でない、危険もあれば色々であることから、安全確保は今後も必要である。

(終了)

(現地審査の様子)

